

【大学院音楽研究科 博士前期課程（修士課程）】
＜2025年度入学試験 A日程・B日程＞ 試験科目と出題意図

各試験科目について、2025年度入学試験の出題意図を公開します。

― 試験科目一覧 ―

専攻	学科試験					専攻別試験						面接
	外国語	基礎科目				実技試験	新曲視奏	作品提出	作曲実技	専攻分野 筆記	口頭試問	
		西洋音楽史	音楽理論	音楽学概論	楽書解読							
器楽	○	○	○	—	—	○	○※	—	—	—	—	○
声楽	○	○	○	—	—	○	—	—	—	—	—	○
作曲	○	○	—	—	—	—	—	○	○	—	○	○
音楽学	—	—	—	○	○	—	—	—	—	○	○	○
音楽教育	○	○	○	—	—	○ (器楽・声楽)	—	—	—	○	○	○

※新曲視奏はピアノコラボレイティブアーツコース受験者のみ

― 出題意図 ―

試験科目	出題意図	備考
外国語	出願時に英語、ドイツ語およびイタリア語のうちから1カ国語を選択する。 音楽研究科での研究に必要な語学力を判定する。	
西洋音楽史	受験時に専攻問題または共通問題のどちらかを選択する。音楽を専門とする者に必要な知識力を判定する。	
音楽理論	出願時に和声または対位法のどちらかを選択する。大学院で開講される授業の基礎知識として必要とされる調性、和音についての理解力を判定する。	
音楽学概論	共通問題（音楽学全般に関する基礎的な知識および方法論に関する問題）と選択問題（西洋音楽、日本音楽、民族音楽の各分野に関する基礎的な知識および方法論に関する問題。出願時に分野を選択。）の両方を受験。音楽学の研究に必要な知識力を判定する。	
楽書解読	出願時に英語、ドイツ語から1カ国語を選択。音楽学の研究に必要な高度な語学力を判定する。	
実技試験	器楽専攻器楽コース、声楽専攻声楽コースについては、専攻する実技の特性を踏まえた課題を審査員の前で演奏することにより、専門的な演奏能力(技術力、表現力)が身についているかを判定する。 器楽および声楽専攻ヴィルトゥオーゾコースについては、高度な演奏家養成に特化したコースであるため、器楽コースまたは声楽コースの実技試験課題に加え、長時間にわたる高度なレベルの実技試験課題を課し、完成度の高い演奏を実現できるかについて判定する。 器楽専攻ピアノコラボレイティブアーツコースについては、声楽家、器楽奏者と共に音楽を創り出していく課題を課し受験者が備えているアンサンブル能力を判定する。さらにピアノ独奏の課題を演奏することにより演奏能力を判定する。 音楽教育専攻については、入学後に専門以外の実技として学修する実技（器楽、声楽）について、指定された課題曲または任意の曲を審査員の前で演奏することにより、基礎的な演奏能力(テクニック、表現力)を判定する。	

新曲視奏		ピアノコラボレイティブアーツコースは、声楽家、器楽奏者と共に音楽を創り出していくピアニストの養成を目指しているコースであるため、初めて見る譜面を直ちに的確に演奏する力が必要である。試験においては、声楽あるいは器楽の独奏パート（1声部）を含む新曲を、楽曲全体のイメージが表せるようにピアノで適宜アレンジしつつ演奏することを課し、その能力を測定する。	
作品提出		出願書類とともに提出された任意の自作品の楽譜1曲（その音源を添えても可）から、楽器法、記譜法、楽曲構成法などの習熟度や表現力を判定する。	
作曲実技		与えられた素材または与えられた日本語の歌詞により、作曲。時間内に限定された素材を活用して曲を完成させることから、応用力や計画的完遂力などを判定する。	
専攻分野筆記	音楽学専攻	各自の研究主題に関する問題を課し、時代、地域、民族等により異なる多様な音楽をより深く調査・研究する探究意欲と能力を判定する。	
	音楽教育専攻	教育および音楽教育に関する内容を課し、専門分野を研究する探究意欲と能力を判定する。	
口頭試問	作曲専攻	作品提出・実技試験についての口頭試問を行い、提出作品は本人が制作したものであるかを確認し、創作意図と作品の整合性を見る。大学院での作曲の授業、論文指導等に必要な意欲や能力を有するかを判定する。	
	音楽学専攻	専攻分野筆記試験および研究計画に関する口頭試問を行い、本学で研究するために必要な専門的な能力を備えているか判定する。	
	音楽教育専攻	専攻分野筆記試験および研究計画に関する口頭試問を行い、本学で研究するために必要な専門的な能力を備えているか判定する。	
面接		本学の建学の精神と教育方針のもとで学修するに相応しい、豊かな人間性を有しているかを確認する。	他大学出身者、過年度の本学出身者および本学別科生に実施。（出願時点で2025年3月卒業見込みの本学学部4年次の学生は免除）